旧河俣小グラウンドに発電所

太陽光発電事業開始に伴う地域振興に関する協定

▲調印を終え握手を交わす（左から）白石善吾会長、中村博生市長、佐藤睦浩社長

東陽町の旧河俣小学校グラウンドで太陽光発電事業が行われることに伴い、3月28日、東陽地域の振興・活性化への参画に関しての協定式が市役所で行われました。事業を行うのは北海道の道東電機で、同社の佐藤睦浩代表取締役社長と中村博生市長、東陽まちづくり協議会の白石善吾会長が協定を行いました。

市では市有資産の有効活用を進めており、「廃校跡地グラウンドの利活用」における事業決定は初めてです。発電所の名称は「しょうがの里河俣発電所」。約2600㎡のグラウンドに太陽電池モジュール690枚の設置を4月から行い、平成26年度中の発電開始を目指します。発電出力は110・4kwで、年間発電電力量は約12万9千kw／h（一般家庭36世帯分相当）を予定しています。

小学校新入学児童へプレゼント

黄色い帽子　交通安全グッズ

▲黄色い帽子を受け取った児童たち。後方右が神園喜八郎八代地区交通安全協会会長

3月25日、八代地区交通安全協会から、市内の新小学1年生に黄色い帽子が贈られました。

交通事故から児童を守り、運転者に対する安全運転の意識啓発を目的に同協会が毎年行っており、今年で15回目。この日は、新入学児童を代表して、つるまる保育園の園児4人が市役所を訪れ、神園喜八郎会長から黄色い帽子を受け取りました。

また、3月26日には、ヤマハ熊本プロダクツから市内の新小学1年生に、交通安全グッズ（道路標識が印刷されたクリアファイル）が贈られました。今年で4回目。

平本常人取締役製造生産部長らが市の教育委員会を訪れ、広崎史子教育長へ見本と目録を手渡しました。

▲広崎史子教育長へ交通安全グッズを手渡すヤマハ熊本プロダクツの平本常人取締役製造生産部長（左）

自立をめざして第１期生入学

松橋支援学校 高等部氷川分教室スタート

▲校名板を掲示する生徒たち

県立松橋支援学校の高等部氷川分教室が旧氷川高校の跡地に開設され、4月9日、同校で入学式が行われました。第1期生として入学したのは生徒9人（男子8人、女子1人）。

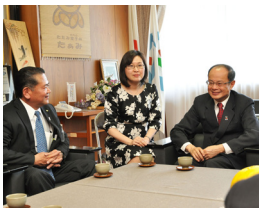
式では、松橋支援学校の甲斐憲彦校長が「自分の可能性に挑戦してください。また、あいさつと笑顔で地域の人たちと交流を深めてください」と激励。新入生を代表して宮﨑隼斗君が「勉強やこれまでに経験したことのない現場実習などを通して、いろいろなことを学んでいきたい。自立をめざして3年間がんばります」と誓いの言葉を述べました。

生徒たちは、旧氷川高校の校舎や体育館、グラウンドなどの施設をフルに活用して、卒業後の就労をめざした作業学習などを行い、地域での現場実習にも励みます。なお、運動会などは本校生徒と一緒に行われることになっています。

港を通した交流促進を

台湾駐日代表ら来代

▲「海煌」に乗船し、八代港を視察する沈代表（右）ら



▲中村市長と懇談する沈斯淳代表（右）

台湾の駐日大使に当たる台北駐日経済文化代表処（東京都港区）の沈斯淳（シンシジュン）代表ら7人が4月2日、八代市を訪問しました。

中村博生市長を表敬訪問した沈代表は「八代市との産業や技術の交流をぜひ進めたい。以前、依頼があった港を通した交流については、台湾の外務省を通して八代市にふさわしい港湾都市を探している」。中村市長は「港を核としたまちづくりを進めている。港を通した台湾との交流が実現できるよう力添えをお願いしたい」などと話しました。

一行は、その後、八代外港を視察。コンテナターミナルの管理棟で、県の小野泰輔副知事から「台湾とのコンテナ航路誘致に向けた取り組み」などについて説明を受けました。また、国土交通省の調査観測兼清掃船「海煌（かいこう）」に乗船し、海上から港の様子を視察しました。

１００歳 おめでとうございます

本田 嘉俊さん
（鏡町）
大正３年３月２１日生

８人兄弟の３番目として宮地町で生まれ育った嘉俊さん。徴兵から帰ってきてからは、鏡町で衣料品店を開き、75歳頃まで続けました。
現在は長女夫婦と暮らし、家では新聞を読むのが日課です。
現在でも入れ歯がないという嘉俊さんの長寿の秘訣は「３食をしっかり摂り、間食をしないこと」。

松岡 二ワさん
（鷹辻町）
大正３年３月２０日生

鹿児島県で２人姉妹の長女として生まれ育ったニワさん。八代に嫁いで一人の息子を授かり、60歳頃まで映画館の従業員として精を出しました。50代までは、毎朝八代宮に参拝するのが日課で、20年間ほど続けました。また、編み物が得意で、息子の洋服を手編みで作っていました。
長寿の秘訣は「規則正しい生活を送ること」。

松岡 政義さん
（鏡町）
大正３年３月１９日生

現在は妻と次女と暮らしている政義さん。７人兄弟の長男として生まれ育ち、21歳で海兵団に入団。28歳で結婚し、３人の子どもに恵まれました。終戦後は文政に戻り、76歳まで日産化学工業で精を出しました。
恒例の元旦に掲げる今年の目標は「前進・努力・ありがとう」。
長寿の秘訣は「野菜中心の食事をすること」。

米田 ハツさん
（千丁町）
大正３年３月１１日生

日曜日は毎週のように日奈久温泉へ足を運んだというほど、温泉が好きなハツさん。迎町で生まれ育ち、中学卒業後は大阪に移り住み、家政婦などの仕事をしていました。68歳頃に八代に戻ってからは、天草や菊池、山鹿などを観光して楽しんだといいます。
長寿の秘訣は「食事は腹八分目」。

髙野 ヨシエさん
（坂本町）
大正３年４月１日生

坂本町に生まれ、３姉妹の長女として育ったヨシエさん。家事や農作業の手伝いをしながら過ごし、結婚後は、農業や土木作業を手伝いながら３人の娘を育てました。
孫やひ孫と遊ぶのを楽しみに過ごすヨシエさんは、甘いものが大好きで、毎日のおやつをかかしません。
長寿の秘訣は「自分の好きなものをたべること」。

森岩 ユクノさん
（坂本町）
大正３年３月２９日生

４人兄弟の長女として生まれたユクノさん。小学校卒業後は家事や農作業の手伝いをし、19歳で同じ鮎帰地区内の人と結婚。６人の子どもを授かりました。
人形作りやちらしを利用した籠づくりが趣味で、93歳までたけのこ掘りなどにもよく行きました。
長寿の秘訣は「自由気ままに過ごすこと」。

堀田 アヤさん
（昭和同仁町）
大正３年３月２５日生

千丁町で７人兄弟の６番目として生まれ育ったアヤさん。結婚後、昭和校区へ移り住み、５人の子どもを授かりました。
夫の仕事の関係で北九州に移住しましたが、大空襲のため帰郷。農業を営みながら生活してきました。
現在は、デイサービスに通い、家では花作りを楽しんでいます。
長寿の秘訣は「３食しっかり摂ること」。

藤岡 カズエさん
（植柳元町）
大正３年３月２５日生

現在は長男夫婦や孫と暮らしているカズエさん。嘉島町のお寺に生まれ、仏教の学校で修学。24歳でお寺に嫁ぎ、５人の子どもを授かりました。
全国各地での布教活動なども務め、現在もお寺の行事ではお説教をしています。
長寿の秘訣は「できることは自分ですることと、肉類を食べること」。

二見花公園がオープン

▲二見小の児童らとMICAさんの合唱

3月21日、二見本町に新しく二見花公園がオープンしました。NPO法人二見わっしょいファームが、県事業を活用して、地元農家から借り受けた耕作放棄地約2300㎡を開墾し、花を植えたものです。

場所は、国道3号線から山﨑板金向かいの角を東に入り柿本建設の角から50m程登った所です。

この日は、「ふたみ お花畑青空コンサート」が開かれ、ミュージシャンMICAさんが自作の曲を披露したり、二見小学校の児童たちと歌を合唱しました。今後「花カフェ」などが計画されています。

泉小中学校入学式 開校式典

▲授与された校旗を披露

施設一体型小中一貫校となった泉小中学校の入学式と開校式典が、4月9日、同校体育館で行われ、児童・生徒や地域住民など約350人が出席しました。

4月から泉校区における小中一貫・連携教育の導入に伴い、泉第一・泉第二・泉第三小学校を統合。校舎は泉中学校校舎に併設され、泉小中学校となりました。

渡邉裕一校長が「みんなで心と力を合わせて、ワクワクするような泉小中学校を作り上げましょう」と式辞を述べました。

泉第一・第二・第三小学校で閉校式

▲泉第二小学校の閉校式で行われた風船リリース

▲泉第一小学校の閉校式。卒業生も加わり、校歌斉唱

▲泉第三小学校の閉校式で学校の思い出を語る岩山志桜里さん

泉町にある小学校3校が統合されることになり、3月16日に泉第三小学校、同23日に泉第一小学校、同30日に泉第二小学校でそれぞれ閉校式が行われました。

泉第三小学校では、約200人が出席。約30人の先生たちが一言ずつ思い出を語り、出席者全員で校歌を歌って別れを惜しみました。

泉第一小学校では、約400人が出席。児童一人ひとりが小学校での思い出を発表しました。

泉第二小学校では、開校からの59年間を振り返る発表があり、懐かしむ姿が見られました。

八障連ふれあいプラザ 開設

▲野菜なども割安の価格で販売

4月2日、市役所本庁ロビーに「八障連ふれあいプラザ」がオープンしました。

これは、「八代市障がい者福祉事業所連絡会」（略称：八障連）が、会員事業所の活動内容の紹介や授産品の展示・販売、障がい理解のための啓発活動などを行うものです。平日の午前9時から午後5時まで常設されています。

オープニングセレモニーでは、連絡会の沖田芳治会長が「会員23事業所が継続的な運営に協力していきます」と挨拶。主催者と来賓ら5人がテープカットを行いました。

ふるさとエコカルタを寄付

▲寄付に訪れた八代清流高校の生徒と関係者

次世代のためにがんばろ会と八代清流高校の生徒が一緒に作成した「ふるさとエコカルタ」15セットが市社会福祉協議会などに寄付されることとなり、3月25日、同会の会員や同校の生徒が市役所を訪れ、市社会福祉協議会会長の中村市長に寄付目録を贈呈しました。

このカルタは、市が作った「ごろよかカルタ」の裏面に八代の自然やエコロジーに関するカルタを追加したもの。地域の高齢者などの交流の場である「いきいきサロン」のレクリエーションの一つとして楽しんでもらうことを目的に作成されました。

喫煙設備を贈呈

▲喫煙設備贈呈式に出席した日本たばこ産業の関係者など

日本たばこ産業熊本支店から喫煙設備一式が市に寄贈されることになり、3月24日、設置場所のやつしろハーモニーホール2階ピロティで贈呈式が行われました。

JTが進めるたばこを吸う人と吸わない人の双方に配慮した喫煙環境の整備と、環境美化施策の一環として設置されたものです。

寄贈された設備はパーティション・煙流入防止壁・窓ガラス目隠しフィルム一式とスタンド灰皿3基です。

JTの中村健一支店長は「分煙対策に取り組むことで、地域に貢献できれば」と話しました。